

困ったときにはゴッドファーザー

関 雄二 民博 研究戦略センター

カトリック教徒の多いラテン・アメリカでは、子どもが誕生すると、親は友人に子どもの代父、すなわちゴッドファーザーを依頼する。親に万が一のことがあれば、子どもの面倒をみるのはゴッドファーザーなので、責任は重い。昨年、わたしはこれがある場で務めた。

わたしが発掘しているパコパンバ遺跡は、南米ペルー北高地の海拔二五〇〇メートルの山中にある巨大な神殿である。遺跡の麓には、戸数五〇〇ほどの村があり、そこで家を借りながら調査をしている。

ミスコンへの支援

昨年九月、卒業を控えた中学生の女子二人が、学校のミスコンに出場する候補者のゴッドファーザーになってくれとわたしに頼んできた。こんなゴッドファーザーもあるのかなと思いつつも気軽に引き受けた。

イベント当日、飾りたてられた中学校の会場と司会のマイクを握る先生の姿を見て驚いた。これは完全な公式行事だ。音楽とともに、各学年から選抜された候補者がドレス姿で登場し、壇上で演説をする。その後、ゴッドファーザーと腕を組み、見物客であふれかえった講堂を一周し、お金を集



観衆はお気に入りの候補者の募金箱にお金を入れる

める。一周ごとに、校長と審査員が募金額を計算し、発表する。これを三回繰り返し、合計額が一番多い候補者がミスマッチというしくみだ。合計額の半分は、卒業学級の修学旅行に充てられ、残りの半分は勝利者の学級のものとなる。つまり卒業学級が勝てば、全額を卒業旅行に使える。

金があるの言う

単純ななかにも駆け引きがあった。二周目までは小銭ばかりだったのに、三周目に入ると、一発逆転をねらって候補者の家族や同級生、それに何よりゴッドファーザーが札束を募金箱に入れたのである。賭け事を学校ですることになり気分が乗らなかつたわたしも、卒業旅行がかかっていることと懇願する学生の視線に負けて協力することにした。結果は僅差で卒業学級の勝利。後日、インカ帝国の都クスコまでの卒業旅行をしたという。

こうしたゴッドファーザーというパトロンへの依存は、村の生活のさまざまな場面で見られる。主体性や自主性に立つ遺跡の活用事業を計画しているわたしには、将来大きな壁となるかもしれない。